

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取いなば） 1 月号

1. 倒壊パイプハウス撤去支援

J A 鳥取いなばは 1 月 19 日、鳥取農業改良普及所と協力し、12 月中旬からの大雪で倒壊した管内のパイプハウスの撤去などの早期復旧に向けた援農隊を派遣した。

この日は、同 J A と普及所の職員の他、市とボランティアの農家など約 30 人が参加し、鳥取市青谷町でイチゴを栽培する井上さんのパイプハウス 2 棟の撤去を支援した。

井上さんは「援農支援でたくさんの方が駆けつけてくださり、本当にありがたい。援農支援して下さった皆様の為にも良質なイチゴを作りたい」と感謝し、早期復旧に意欲をみせた。

同 J A では 3 月初旬からも県や市と連携し、被害に遭ったハウスなどに援農隊を派遣する。



2. 第 9 回若桜米食味コンテスト

若桜町と若桜支店は 12 月 14 日、「第 9 回若桜米食味コンテスト」を同支店で開いた。「コシヒカリ」や「ひとめぼれ」などの生産者から応募があり、食味値から上位 3 名を表彰した。

第 1 位に輝いたのは同町赤松の藤原さんの「コシヒカリ」で、藤原さんは「1 位に選ばれ、正直驚いている。来年の励みにし、もっと PR して多くの方に食べて欲しい」と受賞の喜びを話した。

同支店の岡山支店長は「研修を通して、若桜の気候を生かした米作りに取り組んで欲しい」と話した。



3. 介護施設で餅つき大会

鳥取支店は 12 月 21 日、支店行動計画の一環として、(株)わかばが運営する介護施設「多機能サポートセンターわかばの家美保」で餅つき大会を開いた。

餅つき大会には、施設の利用者や同支店職員など約 30 人が参加し、支店からはもち米 20 ㌔を提供した。杵つきで、白餅、ヨモギ餅、枳餅をつきあげた。

参加者は、同 J A 職員が餅つきをする姿を見て「よいしょ」と合いの手を入れ、つきたての餅をこねるなど、楽しく過ごした。



4. 環境保全活動金を贈呈

J A鳥取いなばは12月28日、持続可能な開発目標「SDGs」の達成に向けた取り組みの一環として、令和2年7月から有料化されたプラスチック製のレジ袋の収益金の一部を鳥取県森林組合連合会へ贈呈した。

贈呈式では影井組合長が同組合連合会前田会長へ3万円を贈呈した。環境保全活動に役立ててもらうために、来年度以降も継続して寄贈していくことを確認した。

前田会長は「寄贈していただき感謝している。SDGsを協同組合として足並みそろえて取り組んでいきたい」と感謝を述べた。

J A鳥取いなばでは、今後も環境に配慮した商品の拡充や資源の持続可能な調達への取り組みなどを通じて、環境保全活動や社会貢献活動を続けていく。

